

2025 年 9月 30日

発行者 中澤 敬

発行所 ぐんま日独協会

〒371-0031

群馬県前橋市下小出町 1-13-19

電話: 027-231-4553

E-mail: info@jdg-gunma.jp

ホームページ: jdg-gunma.jp/



鈴木克彬名誉会長のドイツ大統領からの勲章伝達式 (2025 年 9 月 22 日)

目 次

1. 会長の言葉	1
2. 鈴木克彬名誉会長のドイツ勲章受章を祝う	3
3. 鈴木名誉会長とぐんま日独協会のあゆみ	4
4. 今年度上半期の行事報告	7
5. ペトラ・ジグムントドイツ大使、草津町を表敬訪問	9
6. 日本百名山独訳(連載 15)	12
7. 知らずに行くと恐ろしいヨーロッパの旅行の落とし穴	16
8. ドイツ Frankfurt am Main での日々	17
9. デザイナー修行奮闘記 (連載 22)	19
10. 田口久美子先生を偲んで	24
11. 新入会員紹介	23
12. お知らせあれこれ	27
13. 第 10 回ドイツフェスティバル in ぐんまを開催します	28
14. 編集後記	29

1. ぐんま日独協会としての新たなドイツとの交流

会長 中澤 敬

すっかり秋になり、清々しい季節になりました。

皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

この夏の出来事として、7月17日、ドイツ大使館より駐日ドイツ大使ペトラ・シグムント閣下が群馬県を訪れ、草津町を訪問されました。ここ数年、駐日ドイツ大使による地方訪問が積極的に行われ、より広く深く、日本という国を学ばれようとする姿勢がうかがわれます。

今回の訪問では、新潟県での会議の後、草津町にいらっしゃいました。ご存じのように、草津町は明治時代に近代医学の指導者として国が招聘した、エルヴィン・フォン・ベルツ博士の生誕の地であるビーティツヒハイム・ビッシンゲン市と半世紀以上にわたり姉妹都市交流を続けてまいりました。



草津町にて、シグムント閣下は、町長への表敬訪問、西の河原公園にあるベルツ博士の記念碑への献花、ベルツ記念館への訪問を通じて、明治時代におけるベルツの日本への功績、ドイツと異なる「温泉」の在り方に、大変興味をお示しになりました。

歓迎夕食会の席では、シグムント閣下が現在の群馬日独協会の状況についてお尋ねになり、鈴木前会長と共に、「ぐんま日独協会は全国にあまたある日独協会の中でも、大変積極的に活動しており、会員の皆さんの強力な支援で維持されている」と報告いたしました。その反面、群馬県にはドイツからの現地法人がないので、ドイツ人との交流に他県の協力を頼む状況にあり、容易に接点がないのが悩みであること、また若い人材が集まらないことも課題であるとお話しました。

その中で閣下からは、「日本とドイツは世界有数の温泉大国であり、日本の中でも群馬県は特に温泉が豊富だと聞いている。そこで両国の温泉に着目し、まずは温泉地同士の交流に焦点を当ててみてはどうか。ぐんま日独協会が音頭を取って盛り上げていけば、ドイツの温泉地と群馬を繋ぐ等、大使館として協力することは可能である」とご助言いただきました。

今後のドイツとの交流に関し、こうしたドイツ大使館の積極的な後押しがあるのであれば、まずは広く群馬県の中で、ドイツの温泉地との交流に興味を持つ地域を探し出し、ぐんま日独協会として、どんなことが出来るか模索していくことから始めても良いのではないかと考えております。例えば、日常生活や伝統文化をモチーフにした小学生同士の絵画の交換、両国の文化や今を紹介するオンライン発表会の実施、ひいては短期交換留学等、少し考えるだけでも様々な取り組み案が考えられますが、我々としては、こうした案件を皮切りに、ドイツとの草の根レベルの文化交流が、県内の様々な地域で大人・子供問わずもっともっと広がっていくことを願ってやみません。当面は、ドイツ大使館およびドイツ温泉協会と群馬県温泉協会に協力を仰ぎ、この仮プ

プロジェクトの可能性を探ってみることといたします。

こうしてドイツ本国との結びつきをより強化していくことにより、群馬県の中でぐんま日独協会の存在をより多くの県民に知らせることが出来る試みでもあると考えます。実現の可能性は未知数ですが、一步を踏み出していきたいと思います。どうぞ皆様からもご意見をお聞かせください。将来的には、温泉地に限らず群馬県の多くの地域がドイツとの姉妹都市締結を結んだりする可能性を広げ、長年ドイツとの繋がりを大切にしてきた、ぐんま日独協会の活動の幅が広がったり、仲間の輪が次世代へ受け継がれるように尽力していきたいと思っています。

来たる11月1日(土)・2日(日)には「第10回ドイツフェスティバル in ぐんま」が開催されます。今回のテーマは“ドイツ音楽とメルヘンの世界へようこそ”です。皆さんお誘いあわせの上、多くのご来場をお待ちいたします。

皆さまのご協力をお願いいたします。一緒に頑張りましょう！



草津温泉湯畑 ライトアップ



ベルツ博士の銅像 西の河原公園



ドイツの中学生と草津町の小学生の交流

2. 鈴木克彬名誉会長のドイツ勲章受章を祝う

ぐんま日独協会事務局長 平方秋夫

去る9月22日(月)、秋の気配が漂う中、ぐんま日独協会名誉会長 鈴木克彬様に対し、ドイツ国功労勲章功労十字賞 (Verdienstkreuzes am Bande des Verdienstordens der Bundesrepublik Deutschland) の授与式が、東京西麻布にあるドイツ連邦共和国大使館において行われました。ぐんま日独協会からは中澤敬会長をはじめ10名の有志が参加しました。この日は長く続いた猛暑も漸くおさまリ、すっきりと晴れた絶好の授与式日和になりました。

午前11時に開会された授与式では、先ずドイツ連邦共和国大使 ペトラ・ジグムント様より授賞の理由が読み上げられました。その内容は、先ず鈴木氏がぐんま日独協会の事務局長9年、会長として17年、合計26年の長きに亘りぐんま日独協会を牽引して、日独交流に貢献したことをたたえました。特にドイツフェスティバルや定期的に行ってきたドイツサロンなど各種行事やベルツ博士と草津温泉の紹介、ブルーノ・タウトと少林山の紹介、そしてドイツに関連する多くの講演会などがその主なものであります。

続いてペトラ大使は「情熱、謙虚さそして人を導く力は日独の協力のみならず市民生活の全体にとって模範だ」と称賛しました。そのスピーチの後、鈴木様に勲章と賞状が授与されました。

それに対して鈴木様は返礼として「ペトラ大使の心温まるお言葉に感謝しています。今後も両国の親善、交流の面で、力になれることはあれば、喜んで協力して行きたいと思います。」と結びました。

セレモニーが終了し、参加者全員が鈴木様の功績をたたえ乾杯しました。そして好天の前庭に出て、参加者全員で記念撮影、三々五々、鈴木様を囲んで話に花を咲かせました。あっという間に正午の終了の時刻となり、無事に大行事が終了し大使館を後にしました。

その後、参加者全員が広尾駅近くのイタリアンレストラン・ラトラットリアッチで(La Trattoriaccia)鈴木名誉会長主催の昼食会に臨みました。その会は鈴木様より参加者全員の出席に対し感謝の気持ちを伝える昼食会でした。ぐんま日独協会会長 中澤敬様よりお祝いの言葉があり、全国日独協会連合会常務理事 柚岡一明様の乾杯の音頭で会は始まりました。美味しい食事をいただきながら、和やかな雰囲気の中で皆さんが話に花を咲かせていました。皆が満足して食事を終えたころ、改めて鈴木様より感謝の言葉があり、お土産までいただき、午後2時頃、昼食会も無事にお開きとなり、この日の行事がすべて終了いたしました。

最後になりましたが、改めてぐんま日独協会名誉会長 鈴木克彬様と、長きに亘り克彬様を支えられた令夫人和子様にお心よりお祝いを申し上げます。



左から ジグムント大使・元駐独大使木村敬三様令夫人
鈴木克彬夫妻 大使公邸の前庭にて ©germanembassy

3. 鈴木克彬名誉会長とぐんま日独協会のあゆみ

ぐんま日独協会副会長 高野 誠

1 ぐんま日独協会会長、鈴木克彬様におかれましては、1999年（平成11年）5月にぐんま日独協会の事務局長に就任されました。2008年（平成20年）5月には会長に選出されました。爾来、今まで実に26年の永きにわたって、ぐんま日独協会の発展、日本とドイツの交流の深化、ドイツの様々な魅力の紹介など、本当に多くのことに心血を注いでこられました。

鈴木体制のこの17年間、ぐんま日独協会は隆盛を極め、そのエネルギーは今や地方組織ナンバーワンとまで評されるようになりました。

2 鈴木会長には2005年以来、実に9回にわたって、自ら先頭に立たれ群馬県庁において「ドイツフェスティバル in ぐんま」を企画・開催し、200万群馬県民はもとより広く首都圏の人々に対しドイツの文化、芸術、音楽、生活習慣、ビール、ワイン、ソーセージ、ハムなどドイツの味、環境問題に関するドイツの先進的な取り組みなどをあまねく紹介されドイツの魅力をPRされました。

とりわけ開催に関するノウハウが全くない中で開催にまで漕ぎつけた第1回目のドイツフェスティバルにおける労力は、並大抵ではなかったと拝察いたします。「ドイツフェスティバル in ぐんま」は、群馬県における初めての外国文化紹介イベントであり、同フェスティバルの成功を受けて以降、続々と様々な外国文化紹介イベントが県庁で行われるようになりました。まさに「ドイツフェスティバル in ぐんま」は、群馬県における国際交流イベントの先駆けとなったのであります。

物事は何もないところから始めるのが最も難しいと言われます。何もない中で一から「ドイツフェスティバル in ぐんま」を生み出し、以来、今日まで実に9回を数えるに至った鈴木会長の力量・手腕に対し、会員一同、心から敬意を表して止みません。

3 鈴木会長は、群馬テレビのニュース番組のコメンテーターとしてもご活躍され、3年5か月にわたってテレビ出演し、そのソフトで分かりやすい口調でドイツの魅力をたくさんの日本人に伝えてくださいました。

その人脈を駆使され、新聞やテレビ、ホームページ、SNS などマスメディアを通しての情報発信にもご奮闘され、「ドイツフェスティバル in ぐんま」は毎回、上毛新聞はもちろん、読売、朝日、毎日など全国紙でも大きく報道されました。NHK テレビのニュース番組でも「ドイツフェスティバル in ぐんま」の様子が放映されたときは、私たちは驚きとともに大きな達成感と感動を覚えました。

「ドイツフェスティバル in ぐんま」は、環境問題など毎回、具体的なテーマを設定し、ドイツの先進的な側面を紹介するなど、単なるお祭りイベントに止まらず、様々な社会問題に関して広く日本国民に対し

問題提起を行った意義深いものでもありました。

群馬県内の公的施設やショッピングセンターなどに掲示・設置した膨大な枚数のポスターやチラシの効果もあり、「ドイツフェスティバル in ぐんま」には毎回、1万人から3万人のお客さまにお越しいただきました。ドイツパンやソーセージは全て売り切れるなど、盛況を極めました。

これだけのイベント、壮大な行事を成し遂げるには、膨大な労力が必要だったわけですが、全ての会員が気持ちを一つにして協力し合い、満足感に包まれながら仕事を終えることができたのは、鈴木会長のご人徳、強い統率力、類稀なるリーダーシップなくしてはあり得なかったと、私は一点疑いの余地なく確信しています。

4 名誉欲などとは全く無縁の、純粋にドイツを愛し、日本とドイツの友情の深まりを切に願う鈴木会長の誠実なお人柄は、多くの人々を魅了しました。結果、幾多の人がぐんま日独協会に興味を示し、会員となったのです。もちろん私や妻もその1人です。今や我がぐんま日独協会には、様々な分野において専門的な知見や才能をもつ多士済々なメンバーが集まり、来る「第10回ドイツフェスティバル in ぐんま」の成功に向けて邁進するに至っています。

鈴木克彬会長、ぐんま日独協会をここまで大きく育て上げてくださったことに対し、深く感謝を申し上げます。

5 鈴木会長には、ドイツ大使館とも強固な関係を築かれ、ドイツ大使、首席公使、通訳・翻訳部長さんなどがたびたび群馬に足を運ぶようになり、おかげで私たちも懇談の場に同席させていただくなど、貴重な体験をすることができました。ぐんま日独にいたからこそ、このような体験ができたのだと改めて切に感じています。

6 鈴木会長は就任直後、ドイツ人ゲストと会員との気軽なおしゃべりの場である「ドイツサロン」を設けられました。以後、「ドイツサロン」は毎月の恒例行事となり、現在まで連綿と続いており、その開催数は既に150回を超えております。

この「ドイツサロン」は、ぐんま日独協会の雰囲気にならした革命的变化をもたらすとともにドイツに関心を持つ人々に大きく門戸を広げることとなりました。

敷居が高いインテリの集まりから誰もが気軽に参加できるカジュアルなぐんま日独協会へと変貌を遂げ、多くの人が集まり、組織が劇的に活性化したのです。「ドイツサロン」を通じて、私たちは本当にたくさんの方々と知り合い、多くのことを学ぶことができました。毎月、本当に楽しいひとときを過ごすことができました。鈴木会長が生み出してくださった、このドイツサロンを私たちはずっと大事にしていきたいと、今、心を新たにしています。

7 ほかにも、鈴木会長の下では、クリスマス会、新年会、ドイツ音楽の集い、日独若手会員の集い、有

識者をお迎えしての講演会、ドイツ語教室、日本人とドイツ人が一緒になっての赤城山散策会、ドイツ親善訪問旅行など、実に多種多様なイベントが展開されるようになりました。そのほとんどのイベントに鈴木会長は奥様、和子様と一緒に顔を出され、楽しい集まりになるよう心を砕いてくださいました。数え切れないほど多くのお気遣いもいただきました。まさに行動する会長、顔の見える会長であらせられました。

8 鈴木会長におかれましては、この5月8日で91歳になられると承知しています。しかしながら Zoom を使ったのオンライン役員会にも必ずご出席いただきました。ご自身がこの上なくつらく困難な状況にあるときでも、ぐんま日独のことを深くお考えいただいてご発言され、話をまとめていただいたお姿を思うと、本当に頭(こうべ)が下がるのみであります。

インターネット、メール、SNS、オンライン会議など、この30年、社会は急激に変化してきましたが、鈴木会長はこれらのツールを使いこなし、ネット社会に順応してこられました。社会の様々な出来事に関心を持たれ、90歳となられてもなお、みずみずしく若々しいお心のまま日々行動されておられます。これは実に驚嘆すべきことであり、私たちの模範であり、目標とするところでもあります。私たちもかくありたい、このような人生を歩みたいと思わずにはいられません。

9 奥様、和子様におかれましては永年にわたり会長を支えてくださるとともに、執行理事としてぐんま日独協会の実務面でも大変なご尽力いただきました。ドイツのぬいぐるみ、テディ・ベア作りでは中心的な役割を果たしてこられました。心より感謝して止みません。「和子がいなければ会長職は務まらなかった。」と鈴木会長がおっしゃったのを耳にしたことがあります。

10 本日は、鈴木会長の長年のご功績・ご尽力に対しまして、会員・役員一同、感謝の念を表したく、誠にささやかではありますが、茶話会を企画いたしました。

鈴木会長におかれましては、本日をもって会長職を退かれるわけですが、名誉会長として引き続きご指導・ご助言をいただきたい、これからもぐんま日独の活動にご一緒していただきたいと切に願っています。

鈴木克彬会長、奥様、和子様ともども、幾久しくお健やかに過ごされますことを会員・役員一同、心から祈念しております。本当に永い間、絶大なるご尽力を賜り、誠にありがとうございました。

於 令和7年4月29日 鈴木名誉会長就任のお祝いの懇親会



4. 今年度上半期の行事の報告

I. 定期総会、中澤敬会長並びに鈴木名誉会長の就任懇親会（4 月 29 日）

2025 年 4 月 29 日 定期総会が開かれました。総会では鈴木克彬会長が名誉会長に、次期会長には中澤敬副会長が新たな会長に、副会長には高野誠様が全会一致で承認され就任され、ぐんま日独協会は新体制としての発進となりました。最後に新会長の中澤敬様からご挨拶をいただき、総会は閉会いたしました。



この定期総会に引き続き、中澤敬会長並びに鈴木名誉会長の就任のお披露目として懇親会が開催されました。はじめに長年に渡ってぐんま日独協회를牽引していらしゃった鈴木克彬様の会長としてのこれまでの活動について簡単にお話したあと、鈴木克彬名誉会長からご挨拶をいただきました。次に副会長に就



任されました高野誠様のご発声で乾杯、引き続き鈴木克彬様の会長時代のご活躍と思い出を、鈴木喜代様と高野誠様からお話いただき、

会員からの感謝の気持ちを込めて花束と記念品の贈呈いたしました。最後に、この協회를ドイツ音楽が溢れる会であることも目指された鈴木ご夫妻から、多くの企画や支援をいただいた会員音楽家からお礼の気持ちをこめて、代表して渋川ナタリさんからブラームスの間奏曲 118-2 のピアノ生演奏がプレゼントされました。

II. 第二回日独交流赤城自然園散策会（5 月 11 日）

晴天のこの日、第二回日独交流赤城自然園散策会が開催されました。このイベントには中澤会長ご夫妻も参加され、フレンドリーにお話しして下さるお二人と参加者は親交を深めることができました。昨年の 9 月から高崎経済大学にドイツ、ルートヴィヒスハーフェン経済大学から交換留学生として来日しているドミニクさんとセドリックさんの参加で日独交流、彼らの頑張って話す日本語と参加者のたどたどしいドイツ語、英語で楽しい時間が過ぎました。この日はお天気に恵まれヤマナゲ、ミツバツツジ、ヤマツツジ そして 白い花びらのふわっとした感じの素敵な花「ハンカチノキ」を平方氏から教えていただき、参加者みんなでその木を見上げました。



III. ドイツサロン (6月7日、7月5日、9月6日)

2025年6月7日 ゲストはケルン出身の ピート・バーベルさん (Piet Pabel) ワーキングホリデーを使って来日中、プレゼンテーションのテーマ「ドイツの日常生活：都市、自然、そして 伝統の調和」

ケルン近郊の出身、で母様も日本に一年ほど住んだことがある方で、その影響を受けて日本への滞在を希望したようです。ドイツの地理的なことや人々の生活についてお話してもらいました。

2025年7月5日 ドイツサロン ゲストはセルマ・バーナード (Selma Bannert)、東京日独協会研修生。プレゼンテーションのテーマ「セルマの故郷を巡る旅：ドイツ南西部の魅力」

でしたが、セルマさんは前日に熱中症となり、会場の高崎・陶豆屋には来られなくなりました。急遽女の作った資料をスクリーンに写し、ドイツ南西部フライブルグ在住経験のある瓜生さんが解説しました。セルマさん

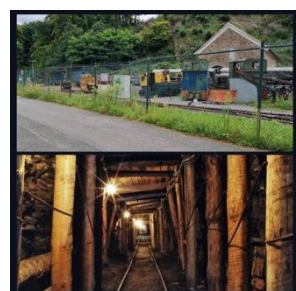


はサロンでお話する予定だった内容を日本語で DVD に収めてくれましたので 11 月のフェスティバルでオンデマンドドイツサロンとして上映いたします。

後半は昨年の 9 月から来日中のドミニクさんセドリッさんが 8 月の初めに留学期間が修了し、帰国するということで日本の思い出や印象をお話いただきました。彼らは 1 月の新年の懇親会、4 月のサロン、5 月の赤城自然園散策会 など、ぐんま日独協会の行事にこれまでいろいろ参加してくれました。

2025年9月6日 ゲスト ドミニク・ナウマンさん (Dominik Naumann) ワーキングホリデーを使って来日中、プレゼンテーションのテーマ「故郷のヴィッテン、特に過去の鉱業について」

ナウマンさんは一年間日本中を旅することを目的としているそうです。プレゼンテーションは日本語で準備をしてふるさとの解説をしてくれました。ヴィッテンには 1714 年から鉱山があり 500 人以上の鉱夫が働いていましたが、1892 年水没事故が起こり閉山となったそうで、その経済ダメージは大きかったそうです。また路面電車が近郊の大きな街まで繋がるようになり、人々が足を運ばなくなったことで街の中心部の商業は大きなダメージを受けているそうで、経済の話を色々してくれました。町は自然豊かでルール川で遊ぶ様子なども紹介されました。この日のドイツサロンには、群馬に住んで 18 年、私はぐんま人ですというアメリカ人のギャレットさん、最近ドイツ語も勉強し始めているそうで、前回のサロンから参加されています。そして高崎の和菓子店に二ヶ月前からワーキングホリデーで来日しているパティシエのドイツ人ハンスさん、国際色豊かなフリートークを楽しみました。



5. ペトラ・ジグムントドイツ大使、草津町を表敬訪問

岡 博子 会員

7月17日(木)にペトラ・ジグムントドイツ大使が草津町を表敬訪問されました。



15時過ぎに草津町職員やぐんま日独中澤会長、鈴木名誉会長、事務局長が役場玄関でお出迎えしました。

それまで降っていた雨も大使のご到着に合わせるように止みました。

2階エレベータ前で黒岩町長、宮崎議会議長、市川前観光協会長(元女将会長)らがお迎えし、町長室ではベルツ博士ゆかりの地ドイツビーティッヒハイム=ビッシンゲン市との長年にわたる交流について和やかに意見交換がなされました。

同席された方々からは交流活動の様子が詳しく紹

介されました。



町長室での会談の最後にはプレゼントの交換や記念撮影が行われました。



その後、西の河原に移動しベルツ博士とスクリ
バ博士の記念碑に献花をされました。

雨が心配され、町職員の方がテントの用意をして
くださいましたが、すっかり雨も上がり、緑色をした
河からの湯煙や硫黄の香りに興味津々のご様子
でした。



献花後は徒歩で西の河原通りのお土産店や飲
食店など、温泉街の雰囲気ある通りを散策され、
途中、観光できていたドイツ人学生から話しかけ
られる一幕もありました。

湯畑見学後には熱の湯で湯もみショーを見学
され、歌やリズムに合わせ、楽しそうにそして熱心
に見学されていました。

車に戻る際には雰囲気のある和風旅館に見入った
り、白根神社祭礼のいくつもの子ども神輿に出会い、
にこやかにそして楽しそうに見送ってられました。



その後、ベルツ博物館に移動され、説明員の方か
らエルヴィン・フォン・ベルツ博士の功績について詳
しく説明を受けながら見学されました。大使からもた
くさんのベルツ博士や温泉についての質問があった
ようで、説明員の方はとても緊張しましたとおっしゃ
っていました。

ベルツ博物館見学後はホテルにチェックインをし
て、小休憩をしていただきました。



短い休憩後はレセプションに臨まれました。

レセプションに町からは宮崎議会議長、黒岩草津町教育長や小林観光協会代表などが、町を挙げての白根神社の催事開催中というお忙しい中ですが参加してくださいました。



そしてそのご挨拶の中で当協会鈴木名誉会長にドイツ連邦共和国大統領から「ドイツ連邦共和国功労勲章十字小綬章」が授与されましたと大使から伝えられ、その通知が渡されました。鈴木名誉会長には誠にありがとうございました。

(授賞式は大使公邸で9月22日に行われました。)

レセプション後はレセプション参加の町関係者の方々と共にマイクロバスに乗り、温泉街で繰り広げられているお祭り見学に出かけられました。

お祭り見学では、町職員や白根神社祭典消防・警備本部の方々が見守ってくださる中を、たくさんの町民の方の中に入っていく、写真を撮ったり話をしたり、積極的に町民と交流されていました。

白根神社例大祭は大変な盛り上がりで10基のお神輿が湯畑に勢ぞろいした時は圧巻でした。大使も動画や写真を盛んに撮られ楽しまれていらっしゃいました。



その後はホテルにお戻りになり、ホテルの大浴場にゆっくり浸かり温泉を楽しまれたということです。

そして翌朝7時に大使館へ向けお帰りになりました。

大変タイトなスケジュールで過ごされましたが、大満足で草津を楽しまれたと伺っております。

その後、大使館のXでも草津での様子がたくさん紹介されておりました。

群馬県には草津以外にも自然豊かな見どころや美味しい特産品などがたくさんあります。

ぜひ、またお越しいただきたくお待ち申し上げます。

6. 日本百名山独版 — 連載15

深田勝弥 会員

72 富士山 (3776 米) *Fujisan* (3776 Meter)

72-01

この日本一の山について今さら何を言う必要があろう。かつて私は『富士山』という本を編むために文献を漁って、それが後から後から幾らでも出てくるのにサジを投げた。おそらくこれほど多く語られ、歌われ、描かれた山は、世界にもないだろう。



Ich habe schon nicht nötig zu reden über an den höchsten Berg in Japan. Ich hatte die Quellen über den Berg gesammelt, um herauszugeben das Buch namens „*Fujisan*“. Doch sie sammelt sich so viel, dass ich diese Arbeit verzichte. Der Berg, der so viel erzählt, gesungen und gemalt wurde, kann in der Welt kein sind.

72-02

世界一の資格はそれだけではない。山岳史家マルセル・クルツの書いた『世界登頂年代記』を見ると、富士山は六三三年に えんのおづぬ 役ノ小角に登頂され、そしてそんな高い山へ登ったのは、これが世界最初となっている。小角の登山は伝説的であるが、しかし平安朝に出た みやこのよし 都良香の『富士山記』には頂上の噴火口の模様が書いてあるから、もうその頃には誰かが登っていたに違いない。一番早く富士山が人間の到達した最高峰の記録を建てたわけである。しかもこの記録はその後長い間保持され、一五二三年ポポカテペテル(五四五二米)の登頂まで続いた。約八、九百年もレコードを保っていたことになる。一夏に数万の登山者のあることも世界一だろう。老いも若きも、男も女も、あらゆる階級、あらゆる職業の人々が、「一度は富士登山を」と志す。これほど民衆的な山も稀である。

Seine Qualifikation für die erste Stelle von Bergen in der Welt ist nicht nur oben vorerwähnt. In dem Buch „Die Chronik der Berge“ von Berghistoriker Marcel Kurz steht es, dass „*En-no-Odunu* schon 633 *Fujisan* erstiegen hatte. Das ist zum ersten Mal, und er den hohen Berg bestiegen hatte“. Diese Ersteigung von *En-no Odunu* ist legendär, aber im Buch „Die Geschichte des Fujisans“ von *Miyakono Yoshika* steht der Zustand des Kraters auf dem Gipfel, schon in der *Heian* Zeit (794 - 1192). Daher hatte irgendein schon damals am frühesten erstiegen. Dazu wurde dieses Dokument bis 1523, die Ersteigung des Popocapetel (5452 Meter) aufbewahrt. Daher hatte das etwa 800 oder 900 Jahre lange behalten. Es mag auch am erstens in der Welt sein, dass einige Zehntausend Aufsteiger in einem Sommer sind. Alte und Junge, Männer und Frauen, alle Menschen von Klassen und Berufe wollen einmal im Leben den *Fuji* ersteigen. Das ist selten, so volkstümlicher Berg.

72-03

というより、国民的な山なのである。日本人は子供の時から富士の歌をうたい、富士の絵を描いて育つ。自分の土地の一番形のいい山を指して何々富士と名づける。最も美しいもの、最も気高いもの最も神聖なものの普遍的な典型として、いつでも挙げられるものは不二の高根であった。

Das ist ein Nationalgefühl eher, als obengenannt. Japaner sind seit den Kinderjahren, das Lied von *Fujisan* singend, seine Schönheit malend aufgewachsen. Und sie nannten den Berg mit am besten Gestalt in eigenem Land, so etwas wie *Fuji*. Was am schönsten, nobelsten und heiligsten, das heißt allgemeiner Ausbund wurde immer Hoher *Fujis* Bergspitze „*Fuji no Takane*“ genannt.

72-04

世界各国にはそれぞれ名山がある。しかし富士山ほど一国を代表し、国民の精神的資産となった山はほかにないだろう。「語りつき言いつぎゆかむ」と詠まれた万葉の昔から、われわれ日本人はどれほど豊かな情操を富士によって養われてきたことであろう。もしこの山がなかったら、日本の歴史はもっと別な道を辿っていたかもしれない。

Jedes Land in der Welt hat jeden schönen Berg. Aber es ist wohl kein, außer *Fujisan*, den das Volk als geistiges Eigentum gemacht hat. Wie viele Japaner haben so höheres Gefühl gewonnen seit alten „*Manyo*“ Zeit, mündlich und schriftlich mit dem *Tanka* über *Fuji* überliefern. Wenn dieser Berg kein wäre, hätte die japanische Geschichte anderen Weg gegangen.

72-05

全くこの小さな島国におどろくべきものが噴出したものである。富士を語ってやまなかった小島烏水氏の文章に「頂上奥社から海拔一万尺の等高線までは、かなりの急角度をしているとはいえ、そこから表口、大宮町までの間、無障碍の空をなだれ落ちる線のその悠揚さ、そのスケールの大きな、そののんびりとした屈託のない長さは、海の水平線を除けば、およそ本邦に於いて肉眼をもって見られ得るべき限りの線であろうとある。

Es ist wirklich, dass solches wunderbare auf dieses kleine Inselland ausgebrochen war. In dem Text von Herrn *Usui Kojima*, der über *Fujisan* immer spricht, steht es, dass obwohl der Abstieg zwischen dem Schrein auf dem Gipfel und der Höhenlinie auf 3000 Meter Höhe (ü. d. M) ziemlich steil ist, doch ist es von hier zur Stadt des Haupteingangs *Ohmiya*, ohne Hindernis, behaglich Größe und Länge. Außer dem Horizont des Meers, mag es am längsten in Japan in Sicht mit Augen sein.

72-06

おそらく本邦だけではない。世界中探してもこんな線は見当たらないだろう。頂上は三七七六米、大宮口は一二五米、その等高線を少しのよどみもない一本の線で引いた例は、地球上に他にない。

Vermutlich ist kein solche Linie in dem Ausland, die Höhenlinie, die aus dem Gipfel (3776 Meter hoch) bis Stadt *Ohmiya-guchi* (125 Meter) kein Hindernis ist.

72-07

八面玲瓏という言葉は富士山から生まれた。東西南北どこから見ても、その美しい整った形は変わらない。どんな山にも一癖あって、それが個性的な魅力をなしているものだが、富士山はただ単純で大きい。それを私は「偉大なる通俗」と呼んでいる。あまりにも曲がないので、あの俗物め!と小天才たちが口惜しがるが、結局はその偉大な通俗性に甲を脱がざるを得ないのである。

Das Sprichwort „die Gestalt wie Edelstein“ ist aus *Fujisan* geboren. Wenn auch man von allen Richtungen geblickt, ist seine Schönheit gleich. Jeder andere Berg hat meistens ein Eigentum und es ist der individuelle Reiz. Aber der *Fujisan* ist einfältig groß. Daher nenne ich ihn „eine große Volkstümlichkeit“. Er ist so uneigentümlich, dass die kleinen Intellektuellen über seine Größe ärgerlich sind, aber diese Volkstümlichkeit siegt über sie am Ende.

72-08

小細工を弄しない大きな単純である。それは万人向きである。何人をも拒否しない、しかし何人もその真諦をつかみあぐんでいる。幼童でも富士の絵は描くが、その真を現わすために画壇の巨匠も手こずっている。生涯富士ばかり撮って、未だに会心の作がないと嘆いている写真家もある。富士と眺めっこして思索した哲学者もある。

Er ist eine große Einfachheit ohne Handarbeit. Er passt zu allen Menschen. Er lehnt niemanden ab. Aber niemand kann seine Wahrheit greifen. Kinder können ihn zwar darstellen, aber der Meister im Malerkreis kann seine Wahrheit kaum wiedergeben. Es gibt den Fotograf, der zeitlebens nur das Fotografie des *Fujisan* machend, jammert um noch kein zufriedene Foto zu machen. Und ein Philosoph denkt über etwas nach, dem *Fujisan* Auge in Auge gegenüberstehend.

72-09

地面から噴きだした大きな土のかたまり、ただの円錐の大 ^{ずうたい} 図体 に過ぎぬ山に、どこにそんな神秘があり、そんな複雑があるのだろう。富士山はあらゆる芸術家に無尽のマチュールを提供している。「不尽の高嶺は見れど倦かぬも」とうたったのは山部赤人であった。「雲霧のしばし百景をつくしけり」と詠んだのは芭蕉であった。大雅は富士に登ること数回、その度に道をかえ、あらゆる方面から観察して「芙蓉峰百図」を作った。北斎もまた富士の讃美者で、その富岳三十六景の中の傑作「凱風快晴」と「山下白雨」を残した。夢想国師は造園の背景に富士を取り入れ、北村透谷は富嶽に詩神を見出した。

Wo ist solches Geheimnis und die Komplexität in dem Berg, wie nur riesigen Kegel, der aus der Erde ausgebrochen war?. *Fujisan* bot allen Künstlern unbegrenzten Vorbilder. *Yamabe Akahito* hatte das „*Tanka*“ wie folgt geschrieben.

Zu dem Gipfel des *Fujis*

kann ich mich nicht satt sehen.

Matsuo Basho hatte auch das Haiku geschrieben wie folgt.

Wolken und Nebel

Wickeln eine Weile

hundert Landschaft‘n ein.

Ikeno Taiga hatte *Fuji* einige Male bestiegen, dabei die Landschaft von allen Richtungen beobachtet, hatte er „Hundert Bilder des *Fujis*“ dargestellt. *Katsushika Hokusai* auch, Bewunderer an *Fuji*, hatte „Südwind unterm schönen Wetter“ und „Schauer überm den Fuß des *Fuji*“ aus seinem Meisterwerk „Sechsunddreißig Bilder des *Fujis*“ hinterlassen. Der Priester *Kokushi Musoh* hatte das Modell des *Fujisans* als Hintergrund im Garten aufgestellt. . *Kitamura Tokoku* hatte den Geist des Gedicht in *Fuji* gefunden.

72-10

富士山は大衆の山である。俗謡小唄にうたわれ、狂歌狂句にしゃれのめされ、諺や 譬^{たとえ}にも始終引用されている。新聞の初版の第一ページは大てい富士山の景であるし、富士の名を冠した会社・商品の名は挙げるに堪えまい。

Fujisan ist der Berg für Volk. Er ist sowohl ins Volkslied, satirischen Lied, Scherzlied als auch Gleichnis, Sprichwort eingeführt. Auf der ersten Seite der Zeitung zum Neujahrstag steht meistens die Landschaft des *Fujis*. Die Namen *Fuji* sind unzählbar in die Firmen und Waren angeführt.

72-11

富士山は万人の摂取に任せて、しかも何者にも許さない何物かをそなえて、永久に大きくそびえている。

Alles den jedermann überlassend, und etwas niemanden verzeihend, *Fujisan* ragt ewig groß hervor.

Juni 2025

7. 知らずに行くと恐ろしいヨーロッパ旅行の落とし穴

長井 宏之

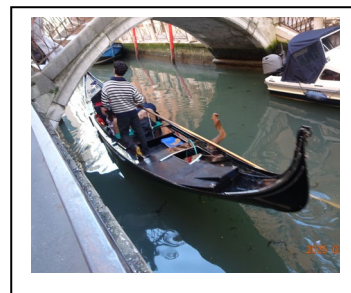
今年の3月末、イタリアに家族旅行に行ってきた。「いずれの所も、それぞれに」素晴らしかった。ベネツィア、フィレンツェ、ピサ、ローマ辺りを見た。

恐ろしいことから書いて皆様の参考に供したい。

○まずトイレが大問題。海外の有名観光地のトイレが有料は常識。私は係員



にコインを手渡せばよい、とだけ覚えていた。しかし、斜塔で有名なピサでは通用しない。このトイレはクレジットカード以外の支払いは全く受け付けないのである。そうとは知らずに来た人々も多くいた。私はコインを出して交渉したが厳しく追い飛ばされた。偶然カードを持っていたのを思い出し無事に入れた。カードの無い老人や子どもはどうするのか。また荷物預所に全手荷物を預けてきてしまった人はどうするか？



もちろん、トイレの裏手や周辺はものすごくきれいに整備されている上にそこかしこに人間がウヨウヨいるのだからどこにも用足しする場所など無いのだ。しかも他に店も無く、どこまでも磨いたようにきれいだった。カードの無い人々がどうしたかは私は知らない。このトイレの一件で私は、ピサ、イタリア、ヨーロッパへの、**信仰にも似た憧憬の半分を失った**。人権のかけらも無いかのような仕打ちだ。カードが無ければかの地では最低の人間扱いすら受けられないのであった。翌月に1ユーロ、165円取られていた。ピサでは2024年5月からクレジットカード方式になったようで**ガイド本には載っていない**からここだけの早耳話だ。

○楽しい話も欲しい。日独の読者には他では得られない未知の知見の提供が必須だろう。

♠ **ピサの斜塔には屋根は無い！** 吹き抜けて地上1階の床から真上を見ると青空だ。塔はただの筒状なので、



私はピサの斜“筒”と言うことにした。**写真**

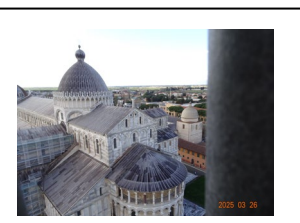
Q: ガリレオが石を落とした落体の実験話は有名だが、これは本当にあった話か？

A: 多分、後世の作り話。おおらかに楽しめばよい話。

♠ **因みに、ガリレオはとてつもなく偉大な人だった**。地動説と斜塔くらいしか世間では知られていないようだが、実は、数学者、科学哲学者、科学者、技術者であった。

理論家の面を受け継ぐ弟子がカバリエリ(高校理系数学の定積分のカバリエリの原理)という数学者であり、実験系の面を受けつぐ弟子はトリチェルリ(中学理科のトリチェリーの真空)という科学者だ。

○ピサという町は、数学の歴史では「ピサのレオナルド」で有名だ。日本ではその人物を、フィボナッチと呼ぶ。高校数学ではフィボナッチ数列が有名である。【第3項の値と第4項の値を足すと第5項の値になる等。一般に、 $a_n + a_{n+1} = a_{n+2}$ というアレです。】私は、ガリレオが試し、フィボナッチが住んだというピサの町の空気を



吸いたい一心で斜塔に来た。296段の狭い階段を55メートルほど登った。もしかして私は発狂してしまうかもしれない、と恐れつつも、科学の歴史上の人物に会えるような気がして万一の覚悟をしてきた。何を隠そう、私は強度の高所恐怖症なのである。塔の最上階を手すりに沿って震えながら1周した。。孔子の曰く『朝に道をばたき』このあたりが石を落としたという伝説の場所だが、、、と思いつつ巡った。

※斜塔最上階からピサの町を一望する 写真

30 年くらい前に時のローマ法王が、ガリレオへの異端審問を謝罪した、といううわさも聞き、科学史を信奉する私は心から安堵したものだった。

やがて塔から地上に降り立って、発狂もせず命も有って良かったと心底安心した。

これ以上の精密な科学話はいくらでも書けるがしかしここは科学史の学会ではないからここで打ち止めた。

ところで私の旅行中の法皇様は私が帰国して 3 週間後に亡くなられた。

○観光地への入場チケット／クーポン券などは、

①必ず、予め、日本で予約を取り、プリンタから印刷して持っていないと大変だ。屋根も無

い炎天下や雨の中を、容赦なく行列させられて、2 時間、3 時間と順番を待たねばならない。

②入場後に券を紛失したらその先は 1 歩も入れない。臨時の関門が随所にあるからだ。

QR コード読み取り器が一瞬で検査。コロセオでは入場後に出口まで 5 回もチェックされた。

③駅の窓口で電車の切符を買っても、電車に乗込むまでの間に改札口は無い。そのまま電車に



乗れてしまう。だが自分で必ずホームの自動改札機に検印を入れねばならない。写真

機械も表示もとても小さい上に、係員がいない。気が付きにくい。検印せずに乗車すると不正扱いとなる。車掌に見つかりと法外な違約金を取られる。この検印方式は日本には無い。現地人は検印しないで素通りするが彼らは定期券を持っているのだ。日本人が、ローマでは何事も訳も知らずにローマ人のマネをしてはいけぬ。諺の、“When in Rome, do as the Romans do.”

【ローマではローマ人の為すように為せ】は古い。4世紀のアウグスティヌスの時代のお話であるのだから。※とても書ききれないが重大な注意はほぼ書けた。皆様、無事に良い旅行をどうぞ。

(今後も同様な紀行文をあちこちに書いて皆様に注意を喚起し続けたいと念じている) ■

8. ドイツ Frankfurt am Main での夏の日々

眞鍋苑子

数年前の自分は、自分が日本の外に出るという事を考えた事ありませんでした。他国の芸術や文化や言葉やさまざまなものに興味関心があったにも関わらず、自分には、そういう事が出来るのはごく限られた特別な人たちだと思っていました。だから、子どもの時から 20 代もずっと、憧れたことありませんでした。本や映画の世界、美術館に行ったりすることで満足もできていました。現に私の両親は、新婚旅行にグアムに行ったのが今のところ最新の渡航歴だそうです。私も日本を離れる時は万が一結婚をする時くらいかもしれないと思っていました。でも、そんな私が 2025 年、初めて日本の外に出ました。ずっと思い焦がれていたドイツに 5 日間、一人で滞在しました。体力や体調に不安もありましたが、初めての日々、とても楽しかったです。すべてを書きたい気持ちでいっぱいですが、今の自分にそれは難しいため、今書ける事、お話ししたいと思った事を、綴りたいと思います。

入国初日は電車での移動に手間取ってしまい、道行く人々に助けられながら、予定よりも遅い時間にホテルにチェックインすることになってしまった事もあってか、お出かけは、できるだけ徒歩で移動をしようと決めて毎朝その日の予定を立てて行動していました。暮らすように滞在をしたいという思いも持っていた事から、ドイツに入

国してから迎えた1日目は、ドイツを離れるまでの日々の朝食にするサンドウィッチの食材、ペットボトルの飲み水などを REWE というスーパーマーケットへ買いに行ったり、滞在時の緊急連絡がスムーズにできるようになるというシステムに登録をしたいと思います、その申請書類をホテルの方に印刷をお願いしたり(翌日、ホテル近くの郵便局で申請は別の郵便局でしてくださいと言われたのですが、他の郵便局に行く余裕がなく、申請できませんでした。もし同じような経験のある方はおられるでしょうか)といった事で1日があっという間に終わってしまいました。その日だけはホテルの朝食を予約していたので、ドイツ産の新鮮な野菜やハムやチーズも味わうことができ、朝食会場の窓の外で、すでに光がだいぶ溢れている夏の朝の空気の中に、フランクフルトの人々の日常が始まっているのを、中央駅のたたずまいや、時折遠くから聞こえてくる日本とは異なるパトカーのサイレン(帰ってきてからも、なぜかこのサイレンの音が懐かしく響いていて、不謹慎な事ですが、この音を聴くとドイツがぐっとよみがえる。滞在中は同じ部屋を借りていたので、何度も部屋からこの音を聴いたからかもしれませんが)や、人々の話し声や通りすぎていく姿などから、しずかにかみしめていました。

ドイツに入国してから、滞在中の滞在しているホテルから目的地まで行く道すがら、さっそく自分にとって困った事だったのが、道の横断でした。幼い頃、家の近所の大通りを渡った先にあったコンビニエンスストアに行くだけの事が恐くて仕方なかった頃の事を思い出しましたが、横断歩道も、日本のなじみあるものとは少し違っていたので、人波を頼りにおそろおそろ渡りました。滞在最終日までには、ここを渡ると安全なんだという場所が分かりました。なれない事といえば、もう一つ。渡航前、夏のドイツでのサングラスの必要性を知り、生まれて初めて街を歩くだけでサングラスをかけました。バックの肩紐をぎゅっと握りしめて、脇をしめて...実は道行く登山者の方の歩き方を真似してみたスタイルで黙々と通りを歩きました。道を横断するタイミングが分からずにいるとなぜかいつもカップル(もちろんいつも違うカップルです)と遭遇することが多く、2人の後ろをついていくことが多かったのも不思議で楽しい記憶です。道を覚えたり、道順の説明を覚えたりといった事が苦手な私は、街歩きの際は要所でインターネットを頼りましたが、それでもできるだけ自分の目で通りの名前を確認したり、有名な建造物やランドマークなどを目印に移動しました。何度か道を尋ねられる側になってしまい、こころもとない返事をしてしまいました。お出かけらしいお出かけの初日に選んだ目的地は、フランクフルトの事を学べる場所に行きたいという想いから選んだ歴史博物館でした。博物館にたどり着くまでの道もドイツの歴史や文化を感じる趣ある通りも多く、すずやかな街路樹が並ぶ静かな住宅街を歩いていた時には、突如教会の鐘の音が響いてきました。しばしそこにそよぐ草花を見ながらたたずみ、耳を傾けながら、それらにしずかに自分が運ばれるように進んでいくと、急に賑やかな人々の声に包まれ、この日は行けないと思っていたレーマー広場が思いがけず近く、突如フランクフルトの青空と共に目の前に広がったのです。自分の想い描いていた憧れのドイツのイメージが、今も生き生きと近代的な都市のすぐそばに存在していて、決してそれが不自然ではなく街として根付き生き続けていて、まるで魔法にかけられたような気持ちになり、ドキドキしました。博物館では展示だけでなく、素敵な言葉と絵画にも出逢えました。マイン川、川にかかる鉄橋、伝統料理、街の夕暮れ...調べ学習をしていたからこそ楽しめた事もありました。行く先々で写真もたくさん撮りました。ほんの少しであっても、人々との交流もうれしかったです。

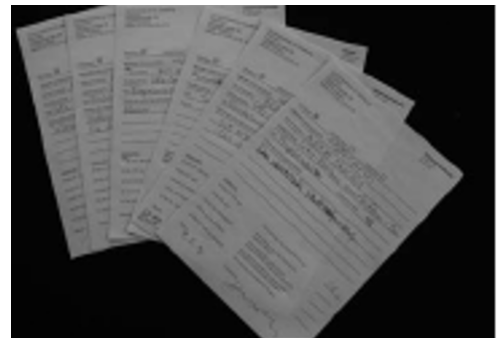
ドイツを離れる最終日の朝、ホテルの部屋で、美術館で購入した絵葉書に、ドイツの郵便局で買った切手を貼って、短い手紙を2通、日本にいる家族(と自分)に宛てて書きました。日本の外から手紙を書くという事だけには、そういえば、自分自身が渡航をすることについてよりも早く憧れていた事を思い出しました。ドイツを旅する語学番組を観ていた時に、そんなシーンがあり、いいなあと思ったことも思い出しました。今度は母を伴ってのドイツ滞在を考えています。 2025年9月20日土曜日、日本からすべてに感謝を込めて。

9. デザイナー修行奮闘記一連載 22

井上晃良

期末試験

私にとって最初の学期も終わりに近づくと、どこの大学でもそうだが、授業の履修に対する評価をするために期末テスト(ドイツではクラスアと呼ぶ)などがおこなわれる。私にとっては最も苦手な講義の授業がこのクラスアの対象科目であるが、半分ぐらいの講義授業はテストに代わってレポート提出になっているのは私にとって救いであった。レポートなら友人に助けてもらうことも可能だからだ。とは言え、友人に丸投げにすることなどできないので、最初に全て完成させて、クラスメイトのウルリケに添削をお願いした。彼女がすぐに引き受けてくれたお陰で、内容はともかく誤字や文法的な誤りがないレポートに仕上げる事ができた。しかし、最大の問題はクラスアである。何しろ初めてである。日本では、通常印刷された問題と解答用紙が配られ、そこに試験時間内に記入し提出というパターンである。そのため、クラスア当日には筆記用具ぐらいしか持参しなかったのであるが、配られたのは手書きの問題をコピーした紙だけであった。私が面食らっていると、隣のクラスメイトは持参したA4サイズのコピー紙に`Blatt 1` (1枚目)と記し、配られた問題の解答を記し始めている。他の学生も同じである。私だけオロオロしていると、隣の学生が数枚の自分のコピー用紙を私に差し出した。これでようやく私もテストを始めたのである。初めての筆記試験はこのような状態で終了したが、予想通り散々である。ただ、結果はともかくやれるだけのことはやったということだけは確かである。



プレゼンテーションと評価

レポート提出、クラスアが終わっても、私達学生にとって最も重要なのはプロジェクト授業である。これは、この授業を履修した全ての学生が KFZ 校舎のスタジオでオール教授を始めとした教授陣にプレゼンテーションするのが学期最後の授業があり、また評価の場でもある。逆に私達学生は、上級のプロジェクト授業や卒業制作のプレゼンテーションに参加して見る事ができる。プレゼンテーションの2週間ぐらい前からは、夜遅くなくても作業を続ける学生が出始めるのは洋の東西を問わない。私も同様で、他の学生と共に暗くなっても仕事を続けたのであるが、私の場合既に4年間の学生経験と実務経験もあるので要領は他の学生よりは良く、なるべく早くから仕事を始め、早めに帰宅する習慣をつけていた。なぜならその方が効率よく作業ができるからである。少なからずの学生は(日本同様?)午後からやってきて仕事を始める。すると、混んでいて機械などが扱えないこともあって、進みづらくなるのである。それがイヤな私はなるべく早めに登校して作業を始めるよう心がけたのは、モデルの仕上げも早めに終わることができた要因の1つだと思う。また、モデル以外にプロジェクト授業のレポートとスケッチを含めたプレゼンテーションボードの作成も始めなければならなかったのも、それらは休日や帰宅後に家で行った。

プレゼンボードなどモデル以外は表現が自由である。そこで今迄日本の大学でやってきたようにA2サイズのボード4枚に纏めることにした。それは言葉では満足に自分の言いたいことを相手に伝えることができないと感じていたからである。なるべく簡潔に、訴求力のある方法で表現することを日本の大学生時代に学習していたので同じ方法を使うことにした。ボードのテキストは必要最低限に抑えながらも全てドイツ語であるのは言うまでもないことであるが、言葉に頼れない分ピクトグラムを多用するなど絵で表現することを心がけた。

オール教授も時々研究室のある KFZ 校舎に出入りするので、授業時間以外でも作品の出来具合を見に来たり、学生の質問に答えてくれるのは日本でも同じである。彼は、課題のテーマに駐車スペースの最小化の他、長時間に渡るバッテリー充電時間や短い走行可能距離の問題を挙げていたので、私はそれらを解決するアイデアをコンセプトに盛り込んでいた。彼は仕上がり間近のモデルを前に話をした時、これら問題についても質問してきたが、私は彼に「解決しましたが、プレゼンまでは秘密です」と言うと、彼はちょっと嬉しそうな表情で「わかった」と頷いた。それほど私は、彼を驚かせたかったのである。

ようやくモデルの塗装を終えて、塗り分け面にテープを貼ったり、各パーツを取り付ける仕上げ作業は楽しい。何しろ完成間近であるからだ。最後迄テールランプの造形が決まらなかったが、友人とも相談しながら何とか妥協点を見つけて仕上げることができた。



プレゼンテーション当日、準備万端でプレゼンテーションに挑んだ。アドリブができない分、発表用の原稿も用意して臨んだのである。私の番になり、用意した4枚のプレゼンボードとモデルを使って説明を始めた。何しろドイツ語のプレゼンは初めてのこと。緊張しつつ話した内容は、私の拙いドイツ語ではプレゼンテーション当日、準備万端でプレゼンテーションに挑んだ。アドリブができない分、発表用の原稿も用意して臨んだのである。私の番になり、用意した4枚のプレゼンボードとモデルを使って説明を始めた。何しろドイツ語のプレゼンは初めてのこと。緊張しつつ話した内容は、私の拙いドイツ語ではおそらくその半分も伝わらなかったであろう。それでも、プレゼンの後、皆から大きな拍手を貰ったときの嬉しさは今でも忘れられない。

各学生のプレゼン終了後に質疑応答を行い、オール教授が発表者に対してコメントをするのだが、私には、「プレゼンのスピーチには問題が少なからずあったが、作品に関しては評価したい」という主旨の言葉に胸を撫で下ろしたのは言う迄もない。

全員のプレゼンが終了し、暫く教授陣が評価会を作品を見ながら行う。評価の方法やその進め方も異なるので、少しここで記しておきたい。

評価点数は、ドイツでは5段階。点数は日本と逆で、最高得点が1.0、最低が5.0である。詳細には以下のようになる。

1.0 ~ 1.5 sehr gut (優)

1.6 ~ 2.5 gut (良)

2.6 ~ 3.5 befriedigend (平均的)

3.6 ~ 4.0 ausreichend (可)

4.1 ~ 5.0 nicht ausreichend (不可)

合格は4.0迄である。つまり成績は5段階評価であるものの、より細分化された評価になるのである。

そして、評価を受ける時の方法は、まず学生が共通のA5サイズの紙に印刷された成績原票に氏名や学期、授業名など必要事項を記入し、授業ごとに担当教諭や助手に提出する。担当教諭は、成績評価と日付、サインをして学生に返却するしくみである。

ドイツの大学に入学して初めて貰う成績が最も重要なプロジェクト授業であったので、それを貰う前も緊張であった。オール教授からプレゼンテーション後の興奮も覚めやらない私に笑顔で成績表が渡された。それを見ると、何と「1.0」の最高得点である。今迄の努力と苦勞が報われた思いであった。

学生が成績を貰うと、その内容に一喜一憂するのはどこも同じである。最高得点を貰ったのは、私を含めて2名。ウルリケは残念ながら最高得点ではなかったものの、彼女はそれでも満足そうであった。もっとも私は他の学生に比べて多くの経験を持っているので、モデルの完成度が高いのは当然である。私が嬉しかったのは、オール教授の投げかけた電気自動車の可能性とそれに対する問題解決というボールに対して、正面から向き合い投げ返したボールが彼の胸に届いたことを実感できたことである。帰宅すると、すぐに私のドイツ留学を応援してくれた大学時代の教授にプレゼンテーションの内容とその評価を電話で報告した。先生は自分のことのように喜んでくれたことを今でも憶えている。後に聞いた話では、このことを大学の式典で学生全員の前で披露したとか。少しばかり恥ずかしくもあったが、この評価は私が会社を辞めてから日本を発ち、1年半の歳月を掛けて体験して来た様々な出来事全てを含めて、正しい判断であったと感じた瞬間になったのである。

プレゼンテーションから一週間後、土日を含めて三日間の一般向けプレゼンテーションが行われる。学生の作品は、卒業制作も含めて、毎学期ごとにプレゼンテーションが行われる。学生はその1週間でプレゼンテーションの準備や、各授業の最終日となる週なので成績を貰う。今回私が履修し、評価を受けた授業は合計6科目。幸い不可にあたる4.1以下の評価はなかったので胸を撫で下ろしたが、筆記試験の科目では4.0というのが一つあった。試験に自信が全くなかった科目だけに助けて貰った感は強い。やはりドイツの大学で学生としている以上は、ドイツ語は避けて通れないのである。

一般向けプレゼンテーション

KFZ校舎で行われた一般向けプレゼンテーションは、賑やかである。カーデザインの世界は、当時花形職業である。他学科の学生や教職員はもちろん、近隣住民も地元新聞の告知や招待状を通して見学に訪れる。更には自動車業界などのデザイナーや役員クラス、モータージャーナリストもドイツ唯一のカーデザインを中

心としたトランスポーターデザイン学科のプレゼンテーションを楽しみにしているのである。我々ホスト側の学生は、特に卒業生については名刺を用意したりスーツを着こなしたりして準備に余念がない。

ここで日本の大学生との就職事情の大きな違いを説明しなければならない。ドイツの場合、就職は企業側に新卒採用枠などという定期的な採用をするシステムがない。つまり企業側に空きポストがあった時に採用される可能性があるだけである。そのため、学生は多くの企業に卒業前から直接問い合わせ、就職活動に臨むのである。入学と卒業が春と秋の年2回あるので、あまり就職シーズンという言葉も聞かない。

私がスタジオでホストをしていた時、多くのドイツの自動車メーカーからの訪問者の中、日本の自動車メーカー2社デザイン室からも訪問者があった。特にH社は部署は異なるが、私が同社の元デザイナーであり、来校した1人が入社前実習で知っていたのである。私がH社に勤めていたことを含めて自己紹介し、彼らも私も含めた作品群に一様の評価をして帰られた。M社については、ボスらしき人から自社デザイナーを数名ここに留学させたいという申し出までするほど興味を持ってもらったが、1年間の留学で卒業扱いにして欲しいという話迄飛び出し、「学生の私に相談されても判断できない問題なので...」と、お茶を濁したが、内心では、ここまで苦勞して入学した私からすれば、その横柄な要望に良い気持ちにはなれなかった。

一般向けプレゼンテーションが終了した後に、プロダクトマーケティングのシュミット教授から、私がいなかったときにアウディのデザイン部長が訪れ、私の作品を高く評価していたことを聞かされた。アウディファンでもあった私は、その言葉に胸を踊らされたものである。更に私とウルリケの作品をスイス・バーゼルで催された電気自動車の展示会に出品されることになり、彼女の夫の運転で三人でバーゼル迄モデルを運んだのも良い思い出の一つである。

(続く)



完成した 1:5 スケールのモックアップモデル。二人乗りの小型電気自動車が課題テーマ。

モックアップモデルは、インダストリアルクレイと呼ばれる粘土で形を作り、石膏で薄く表面を塗った上に下地材、塗装と工程を進めて仕上げます。

(本記事はイカロス出版株式会社発行『鉄道デザイン EX 07』に連載されたものを転載したものです。
同社のご好意により転載の許可をいただいています。)

10. 田口久美子先生を偲んで

原鏡

私が初めて田口先生にお会いしたのは、音大卒業後、ウィーンに留学したいという夢を叶えるべく、ドイツ語の会話を学ぶため、知人の紹介でレッスンをお願いしたのがきっかけです。

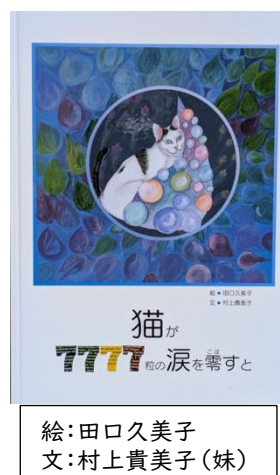
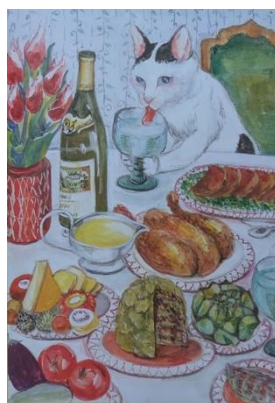
初めて先生のお宅に伺った時、玄関を開けて、先生の第一声は「コーヒーになさいますか？それとも紅茶？」咄嗟に私は「あっ、コーヒーをお願いします」と返答。唐突な質問にあっけにとられた私でしたが、「あー良かった、あなたがそういう人で。どちらでも良いと答えるような日本人的な人だったら、この場でお断りしようと思っていたのよ」奇しくも私は面接？をパスした訳です。ドイツで建築のお仕事という男社会で、バリバリ働いて来られた先生との強烈な出会いでした。

それから、週に2回の個人レッスンが始まりました。質問されて私が答えられないでいると、頭の回転の速い先生は待っていられず、自分で答えを言って、「はい、次」とどんどん先に進んでいってしまい、私はついていくのに必死でした。そんなキビキビした性格の先生でしたが、愛猫ちゃんがやって来ると態度が一変！正に「猫なで声」とはこのことかと思うようなメロメロな甘い声で、ドイツ語で話しかけていました。先生の愛猫ちゃん自慢を聞くのは、緊迫感あるレッスンの中で、ホッとひと息つける時間でした。その後、結婚・子育てを経て、すっかりドイツ語を忘れてしまった私でしたが、ぐんま日独協会で先生と再会する事ができ、本当に嬉しかったです。

ぐんま日独協会主催で私のパイプ・オルガンのコンサートが開催された折、先生が私の紹介をしてくださったのですが、「鏡さんは音大でドイツ語の文法や基礎的な単語を学んでいたの、私の所に来て2週間後には普通に私と会話していた」とおっしゃり、私は慌てふためきました。全くそんな事はなく、赤面してしまいました。同時期に医学部の学生さんを教えていらしゃったので、その方と混同されていたのではないかと思います。

ある時、先生が面白い事をおっしゃいました。「私は本物の音楽を聞くとお腹にズーンと響くのよね」そして、「あなたのオルガンはズンズン響いてくる」とも。この言葉に、私はどれだけ励まされ、支えられてきた事か!!お世辞を言わない、本当の事しかおっしゃらない先生だからこそ、なおさら深く私の心に刻まれています。私の音楽活動をいつも応援して下さいました先生、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

田口久美子先生のご冥福を、心よりお祈りいたします。



11. 新入会員紹介

群馬の片隅でドイツへの愛

井上紀子

ご縁あって日独協会の皆様とお会いできたことを嬉しく思います。

普段は思い切りドイツ語りができる相手もいないので自然とドイツとの関わりも薄くなりがちで、身の回りの物を少しずつドイツ製に変えていくくらいしか楽しみがありませんでした。ドイツで購入したジャージはベトナム製ですがもちろんアディダス、塩もアルペンザルツ、鍋や台所用品、各種洗剤、筆記具、ボディケア、ヘアケア、バス用品、化粧品、靴、腕時計。そのうち車のナンバーをドイツの記念日にしたり掃除方法をドイツ式にしたり。日本で手に入るドイツ製品は想像以上に多く、そのどれもが環境や人に優しく機能的だと使うたび再認識しています。でも本当に素敵だと思うのは買うことのできる物ではなく、日本では感じるることのできないドイツの空気や美しい街並み、文化や国民性です。いつか移住してドイツと日本を行き来して暮らせたらいいな、ドイツの方と友達になれたら着物でお茶を点ててふるまいたいな、日本に遊びに来てくれたら歌舞伎や浮世絵、武具甲冑や着物が見られる場所に一緒に遊びに行きたいな、そして私もドイツのことを沢山教えてもらおう、などと大それた夢や憧れ、野望を持っていた時期もありました（笑）

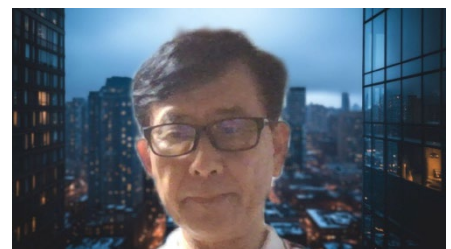


コロナ発生以降はドイツ語の勉強もやめてしまい、せっかく覚えたほんの少しのドイツ語も忘れる一方で、今となってはかなわない夢ですが、いつまでもずっと群馬の片隅でドイツへの愛を叫んでいられたら楽しいなと思っています。

ご挨拶

三木 嘉武

私は以前、群馬日独協会主催のドイツ語講座に参加していました。当時、仕事の都合等で十分な活動ができないのではないかと思います、協会の加入は控えておりましたが、この度思い切って加入させて頂きました。前橋市のプラザ元気21で開催されていた講座は、



その後コロナの影響で中断しましたが、先日久しぶりに参加したドイツサロンで紹介いただいた自主サークルでドイツ語の学習を再開できそうです。

ドイツ国内は家内とフランクフルトを旅したのみで、他の名所旧跡を訪れたいのですが、コロナ、円安、ロシアのウクライナ侵攻のためその機会を逃しています。これから会員の皆様とご一緒できるのを楽しみにしています。

オペラ歌手です

松原広美



新入会員の、オペラ歌手・松原広美です。前橋女子高校の先輩・大木静花さんが紹介して下さいました。

これまでイタリアへ留学したり、イタリア作品をメインに歌ってきたりして、イタリアな者ですが、ドイツとの関わりを振り返りました。大学ではドイツ語を履修し、上級クラスまで進みましたが、4年生のときに、イタリア留学を決心してから、脳内をイタリア語が占めるようになり....。大学卒業後、最初のイタリア留学をし、4年間ミラノに居て、音楽院にもドイツ人が居たと思いますが、ほとんど記憶になく。明らかに関わった記憶があるドイツ人は、指揮のマルティン・シュナイ特先生で、一旦帰国し、東京芸術大学大学院で学んでいたときに、オペラ公演「フィガロの結婚」で、お世話になりました。大学院修了後、文化庁在外研修で、2度目のイタリア留学をしたときに、ドイツ留学していた在研仲間を訪ねて、1週間滞在しました。ミュンヘン、ケルン、ベルリンと回り、ベルリンでは「フィガロの結婚」を観ました....が、原語のイタリア語で慣れ親しんできたので、初めて聴くドイツ語の「フィガロの結婚」は、まるで違うオペラのようでした。さて、目下夢中になり、準備に追われていることは、9月30日から、私とピアニストである主人・松原によるラジオ番組が始まります。まえばし CITY エフエム(84.5Mhz)で、毎月第1・第3(火) 16:30-17:00です。後日拙宅スタジオ【アトリエ・ガヴォー】のYouTubeにも載せますので、いつでも、お聴きください。これから、どうぞ宜しくお願いいたします。

絵本専門店「本の家 2」

石川靖

はじめまして。

前橋千代田町で4年前に絵本専門店をはじめました。『本の家 2』の名前は、高崎駅前に『本の家』という絵本専門店があり、高校生の頃から通っていました。そのお店は、今も高崎市中居町で営業をしていて、その『本の家』に敬意を表して屋号の後ろに「2(に)」を付けさせていただきました。

今、前橋の街が少しずつ変わりつつあり、若者の起業が目立ちます。また、他県からも地方創生という意味で、注目を集めています。人口減少がいろいろと言われる中、また少子高●化の中、前橋まちなかに子どもたちを増やしたいという願いがあります。そんな未来を見据えて絵本専門店を開きました。



絵本を読んで何かを発見したり、人を思いやる優しい気持ちを育んだり、読んだ本で未来の夢を抱いたりしてくれたら嬉しいです。子どもだけでなく大人にもたくさん読んでほしいと思っています。

どうぞよろしくお願いします。

夢はドイツのビアガーデン

マカラー ギャレット



はじめまして、ギャレットと申します。アメリカ出身で、日本には 2006 年から住んでいます。日独協会にアメリカ出身者?と少し変に思われるかもしれませんが、ぐんま日独協会に入会させていただけてとても嬉しいです。

入会のきっかけは、今年の春から前橋ドイツ語会でドイツ語を学び始めた事です。ドイツ語会のお陰で、ドイツについてさらに興味が湧きました。

私はビアガーデンが大好きなので、いつかドイツを訪れて、本場のビアガーデンの雰囲気を経験する事が夢です。協会での活動を通じて、日本とドイツのつながりや相互理解をより深められたらと願っています。

よろしくお願いいたします。

「初めまして ぐんま日独協会」

NPO 法人新町スポーツクラブ 理事長 小出利一

小学生の時は憧れのドイツ。今はたくさんの友人が住む大切な第二の故郷ドイツです。

ぐんま日独協会については、以前から存じていましたが入会のタイミングが合わなくて遅くなりましたが今年から入会しました。私は、日本スポーツ少年団主催の日独同時交流のよって縁ができて 1980 年の夏、西ドイツ(当時)から同じ歳の青少年にホームステイをしていただき、1981 年 9 月、私がその人の自宅に滞在したことが本格的な交流の始まりでした。その人達とは、今も交流があります。そして、平成 5 年 11 月ドイツスポーツ指導者グループを受入れた際に 1 人の指導者が滞在中に肺炎を発症し新町で完治させたことからニュルンベルク市スポーツユースとの交流のきっかけができて、1999 年夏から新町スポーツクラブとニュルンベルク市スポーツユースの定期青少年国際交流が始まりました。ニュルンベルク市との青少年交流は、途中コロナの影響で中断しましたがオンライン交流から再開して今年で 26 年目を迎え、来夏第 9 回の派遣事業となります。そして本年 11 月、指導者 9 名が新町を視察のために滞在します。ドイツのスポーツ文化を学び、日本にもドイツのスポーツクラブのような地域の人達のコミュニティの中心となる地域スポーツクラブの運営を継続して行います。

今後もみなさん、よろしくお願いいたします。



2022 年第 8 回ニュルンベルク市青少年国際交流派遣事業
ニュルンベルク市市長表敬訪問

12. お知らせあれこれ

今年もたくさんの応募がありました！

ドイツ大使館 絵画コンテスト「わたしのドイツ」とは

日本子ども達にドイツに興味を持ってもらうきっかけになってくれればという思いから始まったドイツ大使館主催の絵画コンテスト「わたしのドイツ」。今年18回目を迎えました。

今年度も群馬県内から 155 点(ぐんま日独扱い分)の応募をいただきました。(9月12日が締め切りでした)
皆様、ご協力をありがとうございました。

過去には小学校の部で2年続けて全国3位を受賞し、受賞者は大使公邸での授賞式に参加し、大使から直接表彰をされました。

また、今年4月から7月までドイツベルリンの文化センターにおいてそれら入賞作品(群馬県からは2点)が展示されました。

Informationen



2025 年のテーマは **わ!ドイツ**

「わ!」は友だちの輪の「わ!」

「わ!」はつながる環の「わ!」

「わ!」はなかよしの和の「わ!」

人の暮らしと自然も「わ!」で未来につながっています。

EXPO2025 大阪・関西万博ドイツパビリオンのタイトルは「わ!ドイツ」です。

自然と技術の調和を目指す循環経済を象徴する「輪・環・和」を表しているそうです。

今年度、ぐんま日独の取りまとめに応募してくださった学校は下記のとおりです。

毎年、この他に学校を通さず個人参加してくださる方も数人いらっしゃいます。(大使館に直接個人で送っている方)その方の把握はまだできておりません。

共愛小学校	93 点
前橋市立総社小学校	1 点
共愛中学校	1 点
沼田市立薄根中学校	3 点
前橋第六中学校	57 点
計	155 点

どの作品も力作ぞろいで、みんなみんな「わ」を意識した楽しい作品ばかりでした。

ご協力やお世話をいただきました先生方保護者の方々、関係者のみなさまに感謝申し上げます。

大使館絵画展担当：岡

13. 第10回ドイツフェスティバル in ぐんま を開催します

～ドイツ音楽とメルヘンの世界へようこそ～

「ドイツフェスティバル in ぐんま」は、群馬県庁県民ホール並びに県民広場で開催される日独友好を象徴する大きなイベントです。このドイツフェスティバルは2005年から隔年で開催され今年で10回目を迎えます。今年は「ドイツ音楽とメルヘンの世界へようこそ」をテーマに掲げ、会員のドイツに関する研究発表のパネル展は「グリム童話の世界」が主題です。フェスティバルでは県内の多くの音楽愛好家によるステージ演奏や大使館主催のベートーヴェン交響曲第9番にまつわる「音楽のちから」についての巡回展などもお楽しみいただけます。そしてドイツの食はもちろん、ドイツの文化を育んできた様々な商品を取り揃えてお客さまをお迎えします。内容の詳細は特設ページを設けましたのでご覧ください。

「第10回ドイツフェスティバル in ぐんま」

時：2025年11月1日(土)・2日(日)10:00～16:00

所：群馬県庁 県民ホール・県民広場

内容：①ショッピングで楽しむドイツ

②ぐんま日独協会の売店(オリジナルデザイン付きグッズ、ドイツコーヒー)

③音楽ステージ

④グリムについてのパネルコーナー

⑤大使館コーナー(パネル「音楽のちから」・絵画コンテスト作品展)

⑥ぐんまとドイツの交流展示(姉妹都市交流・日独スポーツ交流)

⑦ドイツ伝統玩具展示コーナー(ティディベアー・メルクリン)

⑧県民広場(ドイツ車フェア キッチンカー)

第10回ドイツフェスティバル記念式典

時：11月1日(土)13:00～13:30

所：県民ホールステージ

来賓：ドイツ大使館 群馬県 前橋市 沼田市 草津町

※ 詳細については特設コーナーをご覧ください。



14. 編集後記

令和7年度は鈴木克彬名誉会長、中澤敬会長そして高野誠副会長が就任し、新体制でスタートを切って半年が過ぎました。漸く軌道に乗った感を持っています。会報ハイマートも今号で66号となり、内容も盛りだくさんで充実したものになってきました。

次号ハイマート67号もご期待ください。会員の皆さんの寄稿をお待ちしております。

11月1日(土)・2日(日)の二日間、「第10回ドイツフェスティバル in ぐんま」が群馬県庁にて開催されます。隔年実施のこの大きな行事を会員の皆さんと共に、一丸となって成功を目指して進めてゆきましょう。準備日を合わせての3日間の期間、皆さんの参加、協力をお願い致します。

(A.H)

問い合わせ先・参照先

ホームページ (HomePage)

<https://www.jdg-gunma.jp>

フェイスブック (FaceBook)

<https://www.facebook.com/JDGGunma>

E-Mail

info@jd-gunma.jp

Tel

027-231-4553 (平方 方)

QR コード



ホームページ



フェイスブック

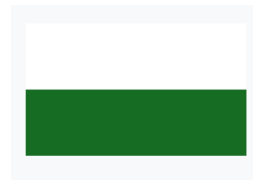
☆雑学トピック☆ ドイツ各州のワッペン(北の州から順に紹介しています)



Freie und Hansestadt Hamburg
ハンブルク特別市 ハンブルク州
Hamburg ハンブルグ



Land Sachsen-Anhalt
ザクセン=アンハルト州
Magdeburg マグデブルグ



Freistaat Sachsen
ザクセン州
Dresden ドレスデン